～研修医日記～

Vol.14　『“へき”とソノサージと私』　― 非常識専攻医編―

　当院では毎週金曜日、良性疾患の手術が予定されている。鼠径ヘルニア、胆嚢摘出術、人工肛門閉鎖術などである。今日はとある金曜日の手術の様子を覗いてみたいと思う。

　あああああ、申し遅れました、わたくし専攻医２年目の非常識専攻医と申します。名前の由来はさておき、以後お見知り置きを。

手術室にて

宴会部長医長:「ではこれより腹腔鏡下胆嚢摘出術を開始します。よろしくお願いします。」

一同:「お願いしま～す！」
非常識専攻医:「(おっ、今からちょうど宴会部長医長の胆摘が始まるぞ。しっかり見学して、勉強させてもらおう。)」

宴会部長医長:「視野を十分展開してから・・・・・・まずは漿膜を切開していきます！」
外科部長:「おお、それでいこかー！」

非常識専攻医:「(外科部長が前立ちだ、よしっ、アドバイスもしっかり聞いて勉強するぞ～！)」

宴会部長医長:「では漿膜が切開できましたので、次に"へき"を出させて頂きます。」
一同:「(んっ…！？"へき"を出す・・・・・・？？)」
非常識専攻医:「(やたら丁寧な申し出だな…けど・・・・・・"へき"って・・・"壁"？・・・"癖"？)」
外科部長:「"へき"ってなんや？？性癖か？？」
宴会部長医長:「(性癖？？ここは胆嚢"壁"に決まってるでしょ！！あっ、これは外科部長が執刀医をリラックスさせようとする気遣いだな。ここは乗っかってみるとしよう)」
宴会部長医長:「ええ、私の性癖を今から出させて頂いてもよろしいでしょうか？？(これでどうだ！)」
外科部長:「あほ～！！💢 お前の癖(へき)なんか知りたくもないわ～～！！💢💢 性癖だかフェチだか知らんけど、手術室でそんなもん出すな～～～！！💢💢💢」
宴会部長医長:「すみませ～～～ん！！💦💦💦 (ええー、なんでー！？！？💦💦💦)」

一同:「(そりゃ怒られるわな・・・・(笑))」

外科部長:「さっさと胆嚢壁出して、手術進めるで～！！」
宴会部長医長:「(そのつもりだったのに、とほほ・・・・・・💧💧)」

手術室の空気というものは独特であり、手術を構成するメンバーや手術の難易度、進行度合により、様々である。冗談やギャグが飛び交う場面もあれば、少しの会話も許されない緊迫した場面もあるのだ。

その後、手術は順調に進み、、

宴会部長医長:「リガシュアーじゃなくて、ソノサージ下さい」
オペナース:「・・・・・・」(ソノサージを手渡す)

数分後、、

宴会部長医長:「そしたら、ハーモニック、じゃなくてリガシュアー、じゃなくて、ソノサージ下さい」
オペナース:「・・・・・・・・・」(ソノサージを手渡す)
外科部長:「・・・・・・・・・・・・」

数分後、、

宴会部長医長:「ハーモニック下さい」
オペナース:「・・・・・・・・・・・・・💢」(ソノサージを手渡す)
外科部長:「・・・・・・・・・・・・・・・・💢」

数分後、、

宴会部長医長:「ハーモニック、じゃなくてリガシュ、、」
オペナース:「・・・・・・・・・・・・・・・・💢💢」(ソノサージを手渡す)
外科部長:「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・💢💢」

非常識専攻医:「(何回言い間違えるんや！！ツッコミたいけど、ツッコメない、、！！)」

宴会部長医長:「リガ・・・じゃなくて、ハモ・・・じゃなくて、ソノ・・・じゃなくて、あれちょうだい！！・・・
（頼む！どれか当たってくれ～～！！）」

そこですかさず・・・・・・

外科部長:「もうそのギャグは聞き飽きたわぁ～～～！！！💢💢💢💢💢💢」
宴会部長医長:「はい～～～～～～～～っ！！！💦💦💦」

さらに数分後

宴会部長医長:「カメラ汚れたね、一回拭こうか。ガーゼペアン、じゃなくてガーゼコッヘル下さい？」
オペナース:「・・・・・・・・・・・・・・・・・💢」(ペアンガーゼを手渡す)
非常識専攻医:「(ガーゼコッヘル、、通じるけど言い間違い過ぎや、、ボケなのかな？)」

なんやかんやあったが、無事手術は終了したのであった。

非常識専攻医:「先生、お疲れ様でした」
宴会部長医長:「おお、お疲れさん」
非常識専攻医:「"へき"、残念でしたね」

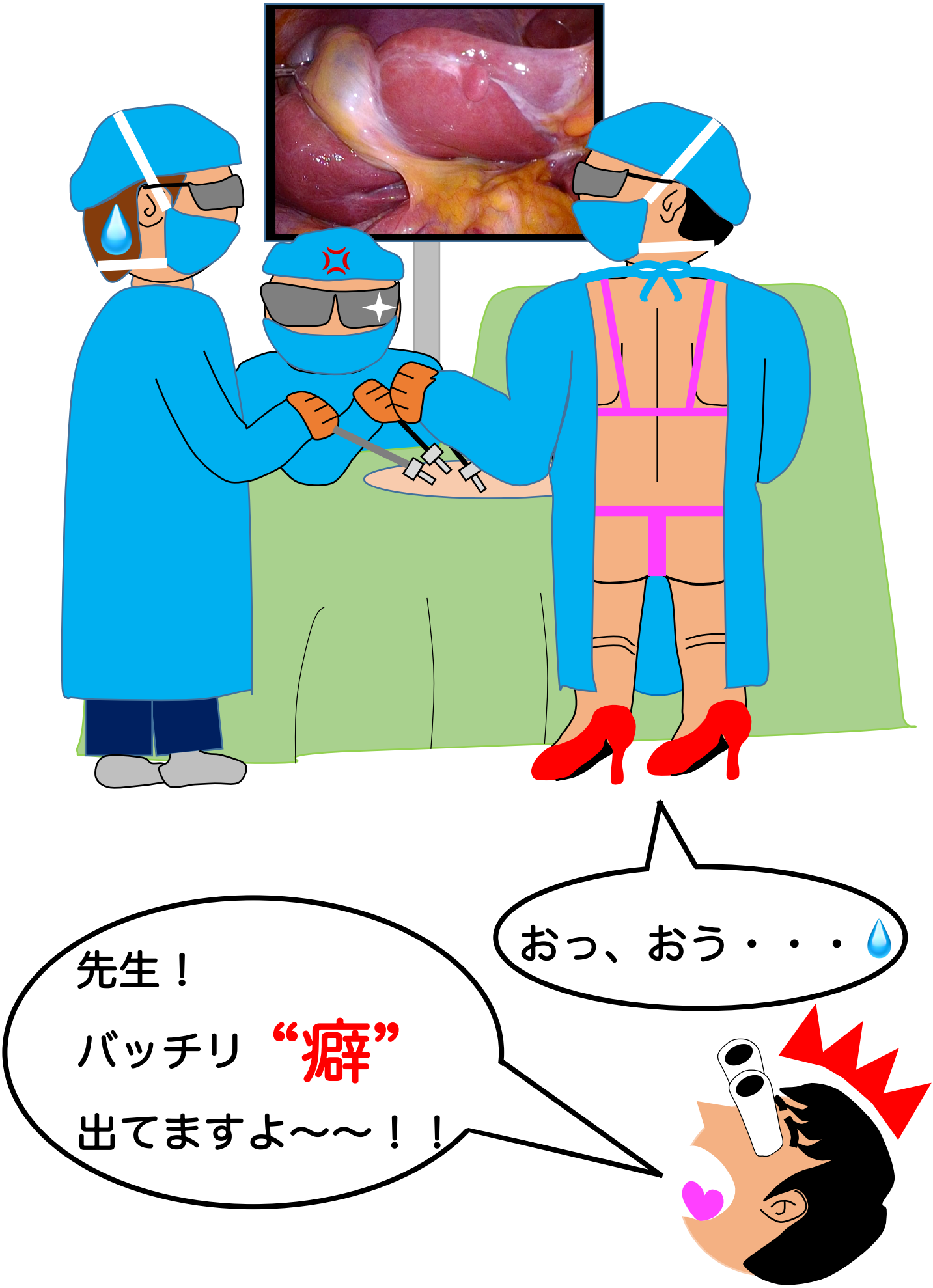
宴会部長医長:「なー、外科部長がボケたと思ったからせっかく乗っかったのに、全部裏目に出てしまったわ～。ま、こういうこともあるさ」
非常識専攻医:「にしても先生、器具の名前間違えすぎじゃないですか？手術の勉強しようと思って見てたのに、面白すぎてそれどころじゃなかったですよ！」
宴会部長医長:「ギャグでもないし～～、間違えたくて間違えてるわけじゃないんやけどな～。まあ、伝わればいいんよ！」
非常識専攻医:「まあそうですよね！伝わっていればいいですよね！」

オペナース:「（全然伝わってないっちゅうねん！！・・・・・・・・・・💧） 言い間違えているのをこちらが読み取っているからうまくいってるんですけどね・・・・・・・・・・ （コイツ、一回肛門からソノサージ突っ込んで胆嚢管を引きちぎったろかぁ～～～！！！💢💢💢💢💢）」

宴会部長医長・非常識専攻医:「申し訳ございませ～～～ん！！ いつもありがとうございます！！！ 近いうちに行きつけの赤ちゃんプレイパブ（研修医日記 Vol.12 参照）に連れて行きますんで～～～！！」
オペナース:「は・・・はい・・・・・・💧（そんなとこ、死んでも行きたないわ！！💢💢・・・・・・）」

手術室ではオペナースが一番立場が上というのも、よくある構図なのである。

【変集者後記】
　たとえ胆嚢摘出中でも、宴会部長医長が“へき”と言うと、“癖”にしか聞こえないのである。これは長年、宴会部長医長と付き合っていれば誰もが理解できる事実なのである。術中のいでたち（イラスト参照）や赤ちゃんプレイパブなど、まさに『クセ（癖）がスゴ～～～い！！！』のだ・・・・・・💧💧
　また、人は不思議と目の前にないものの名前を呼ぶ傾向がある。かくいう私も、家で飼い犬（マルチーズ：メス 15 歳、独身💗）を呼ぶ時に、よく間違えて娘の名前を呼んでしまう。その都度『それ、私の名前やっちゅうねん！！💢💢』 と娘に怒られている・・・・・・💧💧
　にしても宴会部長医長の間違え方は度が過ぎている。彼の 10 年後、20 年後の執刀する姿を想像すると笑いが止まらなくなる・・・💧 万全の介護体制の中で執刀しているのであろうか・・・！？


先生！
バッチリ“癖”
出てますよ～～！！
おっ、おう・・・